

朝日の「宝物」たちのために

朝日地域学校運営協議会だより

令和4年10月 第2号



10月12日（水）、あさひ小学校において今年度第2回目の朝日地域学校運営協議会が行われました。これまで同様、委員の皆様の本地域への熱い思いが込められた、有意義な時間となりました。



このおたよりは、小中学校の保護者の皆様には文書にて、そして朝日地域及び朝日地域に関わる全ての方々の目に届くよう、情報を発信する「ツールの一つ」としてあさひ小・朝日中それぞれのHPに掲載するものです。

さて、今回は主に「小中各校の学校経営中間報告」「熟議：朝日の子どもたちの学力向上について」を行う場といたしました。以下に議事録を掲載いたします。

【報告】

①小中各校の学校経営中間報告について

小中各校長より、現在の各校の子どもたちの様子、今後の学校経営について説明がなされました。コロナ禍ではありますが、子どもたちの頑張り、成長をお伝えする場となりました。

【熟議】

②テーマ「朝日の子どもたちの学力向上について」と題し、委員の皆様それぞれのお立場から様々な思い、ご意見を頂戴いたしました。それらを「人（子ども）への支援」「人（大人）への支援」「人を支える環境への支援」の3つに分類わけをしながら焦点化を図りました。以下にそのまとめをご紹介します。

<人（子ども）への支援>

- ・ 諸活動のお手伝い そうした中で大人のいい姿を見せる
- ・ 地域コミセンでの「夏休み学習塾」による支援
- ・ 地域イベントの企画と参加してもらう工夫
- ・ PC端末（メディア）の利用について地域を巻き込んだ活動の工夫
- ・ 「遊び」を通した学び その場の確保
- ・ 地域との「対話」の重視
- ・ 子ども同士の浄化力の醸成：生徒会への支援、環境づくり
- ・ 子どもたちのグループワーク：場・時間・予算の提供
- ・ 教育活動への地域、保護者の支援 ex:小中の俳句活動への地域からの手厚い支援

<人（大人）への支援>

- ・ メディア利用について、地域の保健だより、大人の学びの場の確保等（事例紹介）による支援→コントロールできる力の育成を
- ・ 教育活動における教職員へのお手伝い
- ・ 学習支援者のネットワークづくり→より人材を探し出しやすい環境づくり
- ・ 子ども（家族）との対話を重視した場の工夫



<人を支える環境への支援>

- ・ 環境保全への支援
- ・ デジタル環境への支援
- ・ コミセンや図書館等の利用拡大の工夫
- ・ 地域の異年齢交流の活性化

・魅力ある地域づくりの工夫 ・コロナ禍における地域行事の減少 ex:大網同窓会開催の可否、大黒舞、地区運動会等開催できず ex:上田沢の10年後を考える 20年後には子どもが0、子どもが朝日に戻ってこない、朝日の良さを実体験させたい→学校、保育園 ・各世代の「居場所」づくり
コミュニティスクール＝地域づくり 本来の目的



<蛸井会長より>

上記3つの項目について焦点化を図り、蛸井会長からは「**学力向上を目指した本地域の重点項目として、生きて働く力として<メディア対応><地域力そのものを高める><地域の人材活用>の3つが挙げられるのではないかと**」のご意見がありました。それぞれについて、各委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。

<メディア対応>

・学校での授業は必須だが、地域としてどう指導できるか。子どもたちの将来が関わってくる話。家庭でのルール遵守にどう協力できるか。履歴のチェックや使用時間の制限(その端末の問題が大きい)など、諸関係機関と連携しつつ、地域が大人をどう巻き込めるか。どう課題意識を持たせられるか。保護者の「我が子の躰・道徳心の育成」としつつ、保護者任せにしない、地域を巻き込んだ指導体制の構築。

<地域力そのものを高める>

・ほんの少しの時間でも、「保護者が先生になる機会」があってもいいのでは。
→「学びのストーリー」として総合、社会科、各小中の行事(劇、校長講話等)に生かす。
・地域の方々との学習の機会を積極的に確保し、行政、地域、学校が一体となる。それぞれの思いを共有できる場の確保。
・「朝日塾」など、てづねークラブとの連携強化。学校サイドの見通しのある計画立て。
・行政と協力しながら、「雇用の確保」を訴え続ける。「戻ってきたい朝日地域」「戻ってこられる朝日地域」に。
・中高一貫校(致道館中高)の立ち上げに伴い、朝日地域の小中学校として子どもたちをどう育てるか。魅力をどう伝えていくか。故郷への思いを醸成できる学校に。

<地域の人材活用>

・地域の指導者たり得る人材の発掘と、人材バンクとしての協議会の機能。
・保護者の方々からご指導いただける機会の検討・確保。

【ご指導 庄内教育事務所 岸田社会教育主事】

すでに朝日地域は地域との関係が非常に近い、「おらほの子どものために」やってきた、紛れもない強みのある学校。第1回協議会での、「地域の方と校長先生のやり取り」「委員の方々の語る内容の質の高さ」「当日のコーディネーター(蛸井会長)の役目」を踏まえ・・・
<協議会が機能していくために>

- ①当事者意識：話し合ったことが実現していく「実効性」のあるもの すでにこの地域は◎！
- ②その活動は…今後の地域、学校の活動として必要?持続可能?ズレの軌道修正を。
→地域の大人のネットワークづくりへ 納得感を伴った当事者意識の醸成
- ③協議会委員の改選＝関わる人の数を増やし、周知・ネットワークを広げる意味がある
→交代や入替はネットワークづくり 関わった人はみんな同じ志の仲間！

「ここでしゃべったことが、実際に叶っていくのが朝日地域(蛸井会長)」

以上、議事録を元にお伝えいたしました。なお、通常この会議はKCTより撮影いただくものですが、今回は都合が合わず、残念ながら撮影はありませんでした。今後も本会の活動にご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

発行:朝日地域学校運営協議会事務局